

大道芸アジア月報 2023 年 7 月

vol. 35, no. 7

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

★大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>

■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>

■名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>

■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>

■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidoge.jp/>

■お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com

■東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/

■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

※新型コロナウイルスの蔓延状況によって実演していない場所もあります。確認の上、お出かけください。

★浅草雑芸団の催し

◆浅草雑芸団・木馬亭公演・テーマ「関東大震災 100 年」

●7 月 7 日（金）18:00～20:00

★今月の大道芸公演

△サーカス学会（共催：桑野塾）<http://societyforthestudyofcircus.org/> ○早稲田大学戸山校舎 36 号館 5 階 581 号室

●7 月 1（土）15:00～17:00

講演：青木深『ジャパニーズ・アクロバット』たち 20 世紀初めのアメリカ大衆芸能を生きて

△第 2 回こが大道芸フェスティバル https://twitter.com/yuzu_tsuka/status/1663876490801610753 ○みちの駅まぐらがの里こが

●7 月 8（土）9（日）

マジシャン HAKU、マジシャン塚原ゆうき（以上 8・9 出演）、ジャグラー KaNaTa、パフォーマーまさきち、スタチュー C.C.（以上 8 出演）
パフォーマー CHIKI、大道芸人たいち（以上 9 出演）

△キラリ☆ふじみサーカスバザール <https://www.kirari-fujimi.com/> ○富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ

●7 月 8（土）9（日）

《キラリ・ドリームサーカス》両日とも 13:30 開演

出演：ふくろうじ、森田智博、田中健太、油布直輝、長すみ絵、吉川健斗、Honoka、鳥居大幹

一般 ¥1000、小人 ¥500（日時指定、整理番号付き）

《マルチャーモアサーカス》両日とも 11:00 開演 / 13:30 開演

出演：天才イカレポンチ、Mr. BUNBUN、Eri&Koe、沢入国際サーカス学校

入場無料。要整理券

△第 36 回下町七夕まつり <https://shitamachi-tanabata.com/info.html> ○浅草・かっぱ橋本通り

●7 月 9（日）12:00～18:00

Shiva、un-pa、clown bomb、ジェンガ金次郎、クラウン・ピンキー、Okk、DanielyMihoko、STILTANGO

△エンターテイメント亀戸 vol.3 <https://www.kameidodaidoge.com/archives/1434> ○亀戸駅北側明治通り歩行者天国

●7 月 9（日）12:00～16:00

Performer Zen、Yo-Yo Entertainer TOMMY、口岩美保子、Performer Ai、ハードパンチャーしんのすけ、アストロノーツ Mark 2、
少年と少女、人形と蝶、豆腐の…小僧…？、SteamJumper

△西尾大道芸フェスティバル in 西尾祇園祭 <https://twitter.com/performerAkiya/status/1664053873341001728> ○西尾市・塩町通り

●7 月 15（土）～16（日）16:30～21:00

Oka、MIKIYA、TAKAYA、Mr. ↑Yu↓、舞夢男爵、Akiya、はちくん、Ryo

△沢入国際サーカス学校・夏の発表会 <https://www.circus-mura.net/> ○沢入国際サーカス学校（群馬県みどり市・旧東中学校体育館）

●7 月 15（土）16（日）両日 13:30 開演

出演・沢入国際サーカス学校・生徒、同サーカス学校・OB

問合せ：k-nishida@accircus.com (西田)

△あしたの劇場 世界を見よう! ○ <https://www.za-koenji.jp/detail/index.php?id=2703> 座・高円寺

A: ピン・ボン (日本/座・高円寺レパトリー) 上演時間: 60 分

●7月15(土)～17(月・祝) ○座・高円寺1

演出: 佐藤信、振付: 竹屋啓子

ぴん組: 公門美佳、久保恒雄、光田圭亮、磯田収 (音楽演奏) 16(日) 11:00 開演、17(月・祝) 13:00 開演

ぼん組: 徳田美佳、出崎洋樹、鳥飼健太郎、磯田収 (音楽演奏) 15(土) 13:00 開演、16(日) 14:00 開演

B: むけがら (フランス/メロディ・モラン) + リトル・ガーデン (フランス/ファブリツィオ・ソリナス) 上演時間: 20 分+30 分

●7月22(土)～24(月) 各 13:00 開演、29(土) 30(日) 各 15:30 開演 ○座・高円寺1

C: ロミオとジュリエット (デンマーク/シアター・リフレクション) 上演時間: 40 分

●7月26(水)～30(日) 各 13:00 開演 ※27(木) 19:00 開演もあり ○阿波おどりホール

出演: シフ・イエセン・ヒモラー、アーボ・レボ

大人 (18 歳以上) ¥2500、子ども (小学生以上) ¥1500、未就学児 ¥500

※大人でも子どもでも、4 枚まとめて購入すると、¥6000 (前売りのみ)

電話: 03-3223-7300 (座・高円寺チケットボックス) 月曜定休

△Summer Night ちんどんライブ in Tokyo ○江東区・森下文化センター・4FAV ホール

●7月18(火) 19:00 開演

チンドンかわち家、レジェンドチンドン楽士西内徹、ちんどん月島宣伝社

¥3000 (当日 ¥500 アップ)

予約・問合せ: 090-882-6300 (チンドンかわち家)

△真夏の路上芸術祭 2023 <https://www.facebook.com/chalkart.on.the.street/> ○三軒茶屋・栄通り商店街

●7月22(土) 13:00～18:00

ToMo、ミルコ、松本かなこ

△アツギストリートパフォーマンスライセンス審査会 <https://www.city.atsugi.kanagawa.jp/soshiki/shogyonigiwaika/2/2333.html>

●7月22(土) 15:00～20:00 会場: 中町花の公園

応募締切: 7月3日(月)

あつぎ街かど大道芸 (本年 9 月以降の毎月第 3 日曜、中町花の公園で開催予定)

△四国中央紙まつり <https://kami-maturi.jimdo.com/> ○愛知県四国中央市・紙まつり会場アーケード

●7月29(土) 30(日) 10:00～16:00

なにこれ? 劇場、ジェンガ金次郎

△いいだ人形劇フェスタ 2023 ○飯田市内各所

●8月3(木)～6(日)

ましゅ&KEI、エディー、山本光洋、番台屋謝謝、江戸糸あやつり、ハンガ〜マン、グレゴの音楽一座、デバドロアノ、なにぬの屋、
バーバラ村田、オマールえび、紙芝居屋三橋とら、

△はこだて国際民俗芸術祭 <http://wmdf.org/> ○函館市元町公園

●8月5(土)～9(水)

△群馬・高崎〈お肉の祭典〉 <https://gunma-oniku-saiten.com/> ○高崎市もてなし広場

●8月19(土) 20(日) 10:00～17:30

△アートタウンつくば大道芸フェスティバル 2023 <https://arttown.amebaownd.com/> ○つくば中央公園通り

●8月26(土): 12:00～21:00 / 27(日) 10:00～21:00

△全日本郷土芸能協会創立 50 周年大記念公演 https://www.facebook.com/jfpaa.jp/?locale=ja_JP ○明治神宮会館 (明治神宮内)

●9月2(土) 3(日)

9/2 13:30 開演 出演: 沢田鶏舞 (青森県)、金津流石関獅子躍 (岩手県)、春日流落合獅子踊 (岩手県)、南部神楽「鶏舞」(宮城県)、
本海獅子舞番楽平根講中 (秋田県)、喜多方の祭囃子 (福島県)、秩父屋台囃子 (埼玉県)、和太鼓・都筑太鼓 (横浜市)、
まつり田楽座 (長野県)、千本ゑんま堂大念仏狂言 (京都市)、石見神楽 (島根県)、比婆荒神神楽「猿田彦の舞」(広島県)

9/3 12:30 開演 出演: 早池峰神楽・大償 (岩手県)、黒森神楽「恵比寿舞」(岩手県)、北藤根鬼剣舞 (岩手県)、小島願人踊 (宮城県)、
和太鼓・竜鳴太鼓 (東京都)、和太鼓・大江戸助六太鼓 (東京)、和太鼓・河乃裕季 (東京)、篠原おどり (奈良県)、
津軽三味線・緑の会 (福島県)、神楽獅子舞「九つの龍」(群馬県)、金津流獅子躍・横浜 (横浜市)、横尾歌舞伎 (静岡県)、
河内仁ワ加 (大阪府)、石見神楽「鍾馗」(島根県)

入場無料 (要予約) 9/2 の予約 <http://forms.gle/QSTfzwTKNfjnGNKE7>

9/3 の予約 <http://forms.gle/psbNsxgxhMHAs7CC7>

若林正の

食って極楽

マゾヒズムの大食い・・・

西早稲田「ラーメン富士丸」

流行りのラーメンに「二郎系」というものがある。三田の慶應大学そばの有名店「ラーメン二郎」という店の味やスタイルを継承したラーメンのことだ。とにかく量が多く、味が濃いのが特長。何度か食したが、この頃、脂濃いものや量を食べると胸やけやら腹つかえを起こすようになってきた。まあ前期高齢者としては当たり前だが、まだまだ大盛りを眼が欲してしまい、食べてから後悔するの繰り返しだ。

さて、雑芸団の稽古場である大久保のスタジオ近くに、二郎系ラーメンの店が出来た。

「ラーメン富士丸・西早稲田」。ここは二郎系ラーメンの有名店で、王子に本店があり常に長蛇の列だ。興味はあったが、並んでまで食うのはいいかと思っていた。しかしここはまだオープン間もないらしく、全然空いている。そこで稽古の帰りについ入ってしまった。胸やけ覚悟で。

この店には大盛りが無い。麺が普通盛り 400 グラム、茹でる前の量だから 600 グラムになる。それにモヤシが 300 グラムにチャーシューは 200 グラム。汁込みで計 1.3 キロくらいある。流石にミニにしたが、麺が 300 グラムになるだけで他は同じ量。野菜も少なめに、味変の為に生卵と背脂を付けて ¥950 也。とにかく麺が太くて固め。顎が疲れる。味は醤油仕立てだが、味濃くしょっぱい。



ただそれがゴワゴワ麺に合う。チャーシューも固まりが三つ。うまいが…飽きる。生卵にからめたり、背脂を足したりして何とか完食。隣で普通盛り頼んだ兄ちゃんは、まだ半分も食べられてない。同時に着井したのに。思ったより楽勝(?) と思いきや、駅に向かう道からひどい胸やけが始まったのだった。

○.そろそろこんな食いは

ヤバいかな度＝マイナス 3 ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり
☆その 380

六〇年前のサーカス

上島敏昭

○サーカス資料館

先月、サーカス資料館に行ってきた。六十数年前に発行されていた「日本仮設興行新聞」を見せてもらうのが目的だった。サーカス資料館は群馬県みどり市の旧東村にあり、近くには沢入国際サーカス学校もある。どちらも NPO 法人国際サーカス村協会が運営にあっている。アクセスは、わたらせ渓谷鉄道の神戸駅から徒歩圏内だが、今回はサーカス村村長の西田敬一さんに車で迎えに来てもらった。そればかりか、その新聞を、一応、サーッと目を通すだけで暗くなってしまい、結局、泊めていただいた。

同資料館所蔵のポスターや世界各国のサーカス道具などは昨年、六本木ヒ



ルズの森アートギャラリー・スカイデッキで催された「サーカスは素敵！」展に展示された。しかし、それはごく一部で、書籍・雑誌、その他の文献資料も多く、なかでも「日本仮設興行新聞」はほかの所蔵を知らない。昭和 32 年から 34 年にかけて 30 号まで発行されていたことを、今回、確認した。ほぼ毎月発行されており、作家などにサーカスを見てもらって座談会を行ったり、サーカスファンの著名人からの寄稿が載っていたり、当時の各サーカス団の興行地が記されていたり、海外の情報が出ていたり、想像していた以上の内容に驚いた。サーカス研究のためには、基礎資料として全号覆刻するべき価値があると思う。

なにせ、ポリショイ・サーカスやチェコ国立サーカスが来日して興行的にも大成功した時期で、ポリショイサーカスの特集や日本で最初のサーカス研究書とされる尾崎宏次著『日本のサーカス』（三芽書房）が発行されて、その関連記事もある。昭和 30 年（1955）前後は、トピックも多くてサーカスが社会的にも話題となるが多かったことも、この新聞の内容を充実したものにしている。

○日本仮設興行協同組合

ところでなぜこの時期にこの新聞が

発行されたのか。じつは、その前年、昭和 31 年（1956）年 10 月に「日本仮設興行協同組合」が結成されており、その会報として作られたのがこの新聞だった。実際、2 号までは「日本仮設興行協同組合報」と題されている。ではなぜこの組合が結成されたのか。サーカス研究家の中谷ひろしは「日本のサーカス」（『さすらうーサーカスの世界』芸双書 2 小沢昭一（ほか編、白水社）で、昭和 28 年（1953）からテレビ放送がはじまったことを大きな要因としてあげている。公共放送の NHK と民放である日本テレビが開局し、つづいて民放がつぎつぎに放送を開始するとそれまでの娯楽産業に大きな打撃を与えた。娯楽の王様だった映画は急速に斜陽となったが、サーカスも同様だった。

〈従来業界は互いに縄張りを持ち、芸なども他に漏れるのを防ぐなど一匹狼的な閉鎖社会の傾向であったが、もはやそんな悠長なことはいっておれなかった。各団は業界を結束し、三十一年厚生省認可による日本仮設興行協同組合を設立し、翌年、中小企業協同組合に加盟した。〉

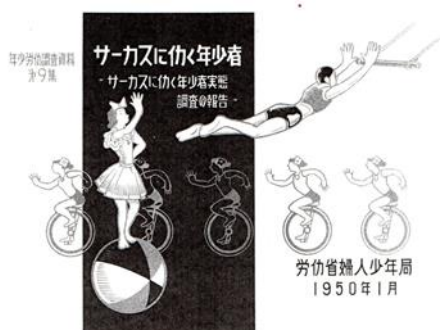
つまり、テレビの登場によって、サーカス業界全体が、娯楽産業として生き残ることができないのではないかと危機意識を持ったというのである。

そのうえで中谷はもうひとつの要因

もあげている。それは新憲法によって打ち出された労働基準法、児童福祉法によって、サーカス業界が旧来から引きずっていた封建的な体質を払拭せざるを得なくなっていたことである。具体的な事実として、「自由を知らぬジントの世界——サーカスの実相綴る脱出青年」という新聞記事をあげている。サーカス団を「勇敢に飛び出した」青年が「封建的内情」を訴え出た。それによって、労働省婦人少年局が実態調査に乗り出したという記事だという。

○「サーカスに仿く年少者」

新聞記事について朝日、読売、毎日をあたってみたが、この記事は確認できなかった。いっぽう、労働省婦人少年局による報告書はみつかった。『サーカスに仿く年少者——サーカスに仿く年少者の実態調査の報告』年少労仿調査資料第9集（労働省婦人少年局、1950年1月）というものである。同書は『日本〈子どもの歴史〉叢書22』（久山社、一九九八年四月）に復刻されており、たやすく読むことができる。さきほど尾崎宏次『日本のサーカス』を、日本で最初のサーカス研究書と書いたが、こちらの報告書のほうが8年もはやく出版されている。つまりサーカスは、「文化」としてとらえられる前に、過酷で前近代的、かつ非人間的な労働問題、社会問題として、世間の注目を集めていたのだ。



本書は本文三二頁。本文のまえに、写真二頁、「はしがき」「目次」がつき、本文のあとに年少労仿調査資料のバックナンバー第1集から第9集のタイトルが記されている。調査の目的をかいつまんでは、子どもたちが危険な労働に携わっているのではない、その安全対策や労働条件、あるいは生活環境はどうかを調査し、検討を加えるというもので、最初は大きな団

体だけの調査であったが、おそらくサーカスからの脱出青年の報告をうけて全国のサーカス団に調査を広げた第二次調査を行っている。

内容は、当時のサーカス団21団体、それぞれの総団員数と、満15歳から18歳までの団員数、満15歳未満の年齢の団員数。また、サーカスの演目それぞれの名称とその演技の説明。簡単な説明図もはいついて、調査目的はそれがどのくらい危険で身体的にも負担となるかどうか判断するためのものだが、いまとなつては、どんな芸をやっていたのかが、詳しくわかる貴重な資料だ。また、それぞれの団体の労働時間、拘束時間、演技時間、休日についても記される。公的機関ならではの調査だ。さらに身上調査もある。たとえば両親の有無、入団経路、教育の状況など、きわめて具体的で、文字通りサーカスの実態を知る上では、格好の資料である。あくまでも「労働調査」が目的なので、私のような芸能の視点とは、その内容についての判断はまったく異なる。

特に違和感をおぼえたのは、サーカス団の名前をAからUまでも仮名としている点。人権を配慮したのか？ 調査のきっかけが「サーカス団を勇敢に飛び出した青年」という扇情的な新聞記事のためか？ しかし、気の回しすぎだろう。かえっておかしな印象を与えていると思う。

○サーカスは悲惨

とはいえ、サーカスの子どもたちをとりまく問題は、この時期にさかんにマスコミに取り上げられていたことは事実で、『週刊朝日』の昭和二四年一〇月二三日号の「サーカスの少女」には〈ピシリ、ピシリ！ 三本の皮を結びつけた、あの長さ三尺ばかりの竹の鞭。



いたいけな少女の身に受けた数々の虐待と忍従。あの鞭音がまだ耳に残る。

酷かったあのサーカスの日々」などとあつたりする。ことさらサーカスを悲惨な世界に捉える風潮があつたのも、また確かなのだ。

この調査の概略も雑誌記事となつていた。雑誌『労働時報』。発行は厚生省。その昭和二四年一一月号。調査報告発行の前に、概略だけを公表したものらしい。タイトルも「サーカスにおける年少者の実態」。こちらには、サーカス団名はすべて実名で記されている。

もうひとつ、雑誌『社会事業』（全国社会福祉協議会編、刊）にも、調査報告を補足するような記事が載っていた。昭和二五年五月号で、タイトルは「サーカスの実態を上田氏に聞く」。上田氏というのがサーカスを飛び出した本人で、本名は上田敏三。聞き手の問いに答えて、サーカスに内情を語っている。上田氏の紹介には次のように書かれている。

〈日本有数のサーカス技術指導者を父に持つ上田敏三氏は、昭和二年七月十日、香川郡（県であろう）大川郡白鳥本町に生まれた。一高を中退するまで巡業中の父とは別居していたが、終戦後、東京後楽園の興行先で父のサーカス団に加わった。以後、主として、教育、経理方面を担当して来たが、父の封建的な世界に堪えきれず、二十四年五月、高知の巡業先から脱走、直ちに上京し労働所婦人少年局長山川菊榮女史に一切の事実を公表した。氏は現在民主的なサーカス団建設のため、各地のサーカス団員と連絡を取り、その準備を進めている。〉

この紹介文によれば、上田氏は最初から労働省婦人少年局を目指したように読める。あるいは新聞記事は同局からのリークだったのかもしれない。山川菊榮は明治二三年（1890）生まれの、女性解放運動家で、片山哲内閣で昭和二二年、初代同局の局長に就任。その後の芦田内閣、第二次吉田内閣、第三次吉田内閣と留任し、昭和二六年退任とある。ちなみに夫は社会主義運動家の山川均である。

このインタビューで、教育環境や労働環境を改善し、企業として合理化するよう提案している。その後、上田氏はどうなったのか。気になるところである。